

第7号

部長	課長	係長	課	員	主任
（印）	（印）	（印）	（印）	（印）	（印）

第8号様式（第14条関係）

令和2年3月31日



伊勢原市協働事業完了報告書

伊勢原市長 殿

住 所 神奈川県平塚市北金目4-1-1
 団 体 名 東海大学工学部建築学科
 加藤研究室
 代表者氏名 教授 加藤 仁美

令和元年10月23日付けで協働事業採択決定通知を受けた事業が完了しましたので、伊勢原市市民協働事業提案制度実施要綱第14条の規定により、関係書類を添えて次のとおり報告します。

1 協働事業の成果

協働事業名	地域と大学の連携による郊外戸建て住宅地における持続可能なコミュニティ形成と多世代交流の提案
事業費総額	100,000円
事業期間	自 令和元年10月23日 至 令和2年3月31日
実施場所	伊勢原市高森台地内ほか
参加者数	延べ 70 人（*先生、学生、地域の方など、延べ人数）
事業実施内容及びその成果	（1）過年度成果の比較・分析（共通点・相違点など） （2）持続可能なコミュニティ形成・多世代交流に与える影響分析 （3）課題に対する取組の先進事例研究 （4）市との打合せ協議 （5）報告書の取りまとめ

2 添付資料

- (1) 伊勢原市協働事業収支決算書（第8号様式）✓
- (2) 協働事業の実施に要した費用の領収書等の写し✓
- (3) その他市長が必要と認めるもの

第8号様式（第14条関係）

伊勢原市協働事業収支決算書

協働事業名	地域と大学の連携による郊外戸建て住宅地における持続可能なコミュニティ形成と多世代交流の提案
団 体 名	東海大学工学部建築学科 加藤研究室 教授 加藤 仁美

収入の部

区 分	決 算 額 (円)	内 訳 (数量、単価等)
市負担金	100,000円	
収入合計額	100,000円	

支出の部

区 分	決 算 額 (円)	内 訳 (数量、単価等)
旅 費	57,334円	○さつまいも苗植え、空き庭調査等 ・学生計：延べ6日 (46,654円) ・平塚駅→伊勢原駅→愛甲石田→高森台ほか ○さつまいも苗植え、空き庭調査、意見交換会等 ・教授計：延べ10日 (10,680円)
事業費	13,000円	○空き庭調査 ・調査費 13,000円 (1,000円×13名)
消耗品	31,072円	○風車イベント、クリスマスイベント 26,072円 ○学会資料 5,000円
支出合計額	101,406円	*差額は、東海大学加藤研究室が負担。

事業評価シート

○協働事業名：地域と大学の連携による郊外戸建て住宅地における持続可能なコミュニティ形成と多世代交流の提案

○協働事業者：東海大学工学部建築学科加藤研究室 教授 加藤 仁美

○事業期間：令和元年10月23日から令和2年3月31日

段階	評価項目
準備段階	1 協働が開始された段階はいつからか ☐ 企画の段階から ☒ 実施段階から ☐ その他（ ） 2 協働の呼びかけはどちらからか ☒ 市民活動団体 ☒ 市 ☐ その他（ ） 3 協働で行う意義は明確だったか ☒ はい ☐ いいえ 意義〔地域、大学、市の多世代交流による地域まちづくり 〕 4 事業の目的は明確だったか ☒ はい ☐ いいえ 目的〔持続可能な地域コミュニティ形成の展開の可能性検討 〕 5 事業の目標（何がどのような状態になることを意図しているか）は明確だったか ☒ はい ☐ いいえ 目標〔住宅更新等の比較検討、地域コミュニティに関する調査〕 6 相互理解は十分だったか ☒ はい ☐ いいえ 理由〔 〕
実施段階	7 協定書作成にあたって十分協議したか ☒ はい ☐ いいえ 理由〔 〕 8 事業運営上の役割分担は適切だったか ☒ はい ☐ いいえ 理由〔 〕 9 進捗状況や情報を共有できたか ☒ はい ☐ いいえ 理由〔 〕 10 実施プロセスの記録は残せたか ☒ はい ☐ いいえ 理由〔 〕 11 互いの特性を活かすことができたか ☒ はい ☐ いいえ 理由〔 〕
終了後の段階	12 事業内容の報告を作り、公開できたか ☒ はい ☐ いいえ 理由〔 〕 13 目的・目標は達成できたか ☒ はい ☐ いいえ 理由〔 〕 14 今後の課題と改善策を話し合ったか ☒ はい ☐ いいえ 理由〔 〕 15 総合的に見て事業に対する満足度は 【 5 ④ 3 2 1 】 理由〔 〕 16 その他、気づいた点 過年度成果の比較・分析結果から、本市の郊外戸建て住宅地における課題を把握することができたとともに、継続的な取組（空き家・空き地の利活用の実践）から、郊外戸建て住宅地における持続可能なコミュニティ形成及び多世代交流の実現に向けた、実践的な取組事例を把握することができた。

